

令和 8 年度採用

川崎市立井田病院 緩和ケア内科

研修医(専攻医)募集要項

A コース

■内科専門医研修プログラム 地域医療・総合内科コース(選択研修:緩和ケア)

B コース

■緩和ケア・在宅ケア専門研修コース

C コース

■短期緩和ケア・在宅ケア専門研修コース

1 病院名／部門 川崎市立井田病院／在宅・緩和ケアセンター

- (1) 開設者 : 川崎市長
- (2) 病院長 : 伊藤 大輔
- (3) 研修責任者: 増田 香織
- (4) 指導体制

- ・ 日本緩和医療学会認定研修施設
- ・ 日本緩和医療学会 専門医・指導医: 久保田敬乃、増田 香織
- ・ 日本内科学会認定医制度教育病院 内科研修責任者: 内科部長 西尾和三
- ・ 日本がん治療認定医機構認定研修施設 がん薬物療法専門医: 西 智弘

2 身 分 川崎市会計年度任用職員

3 待 遇 基本給: 川崎市会計年度任用職員規定に定める通り

4 理 念 ～化学療法から緩和・在宅まで～がんから高齢者ケアまでの統合的緩和ケア

5 応募資格および研修期間

- (A) 内科専門医研修プログラムで選択研修として緩和ケアを選択

応募資格: 医師免許取得後 2 年間の初期臨床研修修了者 (見込み者)

研修期間: 原則として 3 年間 ※詳細は内科専門医プログラム 2026 年版を参照

- (B) 緩和ケア・在宅ケア専門研修コース (主に緩和医療専門医取得を目指す医師を対象)

応募資格: 基本領域専門医取得後の卒後 6 年目以降の者

研修期間：1～2年間

(C) 短期研修

応募資格：初期臨床研修を修了後であれば、年次は問わない。

研修期間：年度途中からの採用希望（時期）や期間については応相談

（各所属プログラムがあればプログラム責任者の了承を得ること）

6 出願書類 ※内科専門医研修プログラムの応募者はそちらを参照の事

（1）履歴書（写真添付、将来の希望領域を記入のこと）※HPよりダウンロード

（2）医師免許証のコピー

（3）現在所属の医療機関における指導医の推薦状（緩和ケア・在宅ケア専門研修コース）

または、研修評価表のコピー（内科専門医プログラム）

7 受付期間 随時

8 応募先 〒211-0035

川崎市中原区井田2-27-1 川崎市立井田病院庶務課 労務研修担当

電話：044-766-2188（代表） F A X：044-788-0231

ホームページ：<https://www.hospital-ida.city.kawasaki.jp/saiyo/kouki/s-kea.html>

メールアドレス：83idakyo@city.kawasaki.jp

9 交通機関 東急東横線日吉駅西口から徒歩15分又はさくらが丘行きバス5分

10 川崎市立井田病院の概況

（1）川崎市立井田病院

①病床数 383床（内科病床 約230床 結核40床、緩和ケア病床23床含む）

②患者数等 平均在院患者数282.1名、年間入院患者：6,116名、死亡数：483名（令和6年度）

③院内診療センター

透析センター、内視鏡センター、外来化学療法センター、HCU/CCU、結核病棟、緩和ケア病棟等

④認定状況

日本医療機能評価機構による病院機能評価認定病院

日本医療機能評価機構による緩和ケアモジュール認定

地域がん診療連携拠点病院認定 各種学会認定教育病院

（2）緩和ケア病棟、在宅部門 診療実績（令和6年度）

①緩和ケア 病棟年間新入院患者：355名 平均病床利用率82% 平均在院日数18.5日

②在宅ケア 年間実患者：154名、往診延べ数：934件、悪性腫瘍患者：140名（90.9%）、在宅看取り：41名

11 緩和ケア内科の専門研修

緩和ケア、在宅ケア、高齢者ケアについて、緩和ケア内科・在宅部門を中心に研修を行います。院内の他の診療部門、例えば内視鏡センター等での研修を希望する場合は自由に追加する事が出来ます。腫瘍内科医の協力のもとで、がん化学療法の導入から維持療法、さらには緩和、在宅まで一貫して主治医を務める研修を行います。

化学療法から早期の緩和ケア、緊急緩和ケア、緩和ケア病棟さらに在宅緩和ケアまで統合した緩和

ケアを行います。緩和ケア、在宅ケアまで行う中で、高齢患者の在宅移行や在宅ケアマネジメントに立ち会い、在宅緩和ケア、在宅終末期ケアについて責任を持って行うことで、地域包括ケアの最も重い症例を経験することができます。

モデルプログラム

(1) 内科専門医プログラム：プログラム3年目に緩和ケア内科を2ヶ月選択、その他訪問診療週1、カンファレンス参加など、内科研修に並行して、緩和ケア内科選択研修を行う事ができます。詳細は内科専門医プログラム2026年版を参照。

(2) 緩和ケア・在宅ケア専門研修コース：基本領域の専門医取得後に緩和医療専門医取得をめざして、専門研修を1～2年で行います。研究発表、論文作成も指導します。

(3) 短期研修：3ヶ月～希望に応じて研修内容を決めていきます。

12 緩和ケア内科研修プログラムの研修目標

■上位目標

緩和ケア・在宅ケア・高齢者ケア・地域連携をキーワードとして、病院から地域、家庭から病院までを継続的に、診療・ケアすることにより、患者・家族・地域に深い造詣を得ることができる。

■到達目標

井田病院緩和ケア内科における緩和ケア、在宅ケアに関する知識技術習得のための研修計画である。基本的に、日本緩和医療学会専門医研修プログラムに準拠した研修計画となっている。

- ・ 在宅ケア患者、緩和ケア患者の診療と研修に従事し、当直にも従事する。
- ・ 専攻医は、緩和ケア病棟・在宅部門・緩和ケアチーム・一般病棟・緩和ケア外来・外来化学療法センター・外来等を現場として、研修を行う。
- ・ 当院の「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」の受講をすることができる。
- ・ 心理カウンセリングは公認心理士の指導をうけることができる。
- ・ がん看護の指導は、専門看護師による指導をうける。
- ・ 在宅看護は訪問看護師、ケアマネジメントはケースワーカーによる指導をうける。
- ・ 高齢患者、医療依存度の高い患者の在宅移行と在宅ケアを実施することで、地域包括ケアを経験する。

■到達目標の概略

＜＜緩和ケア＞＞

- ・ がん患者の身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛、家庭的苦痛を理解できる。
- ・ 患者・家族とコミュニケーションできる。
- ・ がん患者・家族の全人的サポートができる。
- ・ 弱オピオイド、強オピオイドの効果的な使用ができる。
- ・ 非オピオイド鎮痛剤の効果的な使用ができる。
- ・ 鎮痛補助薬の効果的な使用ができる。
- ・ 代表的な病態の症状緩和ができる。
- ・ 終末期の輸液、薬物療法の判断ができる。
- ・ DNAR、セデーションの判断と説明ができる。

- ・ 看取りの対応ができる。
- ・ 早期からの緩和ケアと緩和ケア緊急症に対応できる。
- ・ 放射線治療含む他科依頼の判断ができる。

《在宅ケア》

- ・ 介護力の構造が理解できる。
- ・ 介護力の病態とケアが理解できる。
- ・ 在宅ケアの適応と対応が判断できる。
- ・ 入院患者の在宅移行を円滑に行うことができる。
- ・ 往診での診察、判断、治療ができる。
- ・ 在宅での治療継続、中止、入院の判断ができる。
- ・ 在宅での薬剤の使用法がわかる。IVH、HOT 導入管理ができる。
- ・ 在宅での疼痛コントロール、オピオイドの使用法がわかる。
- ・ 在宅での看取りの判断、対応ができる。
- ・ 在宅家族とのコミュニケーションができる。
- ・ 介護保険の利用により退院調整ができる。施設の適応が判断できる。
- ・ 地域の医療・看護・介護スタッフと連携・協力して地域包括ケアができる。
- ・ 入院治療が必要な場合には、主治医として入院中の全身管理ができる。

《高齢者ケア》

1. 高齢者の緊急入院に対応し適切な治療とケアができる。
2. 高齢者の特性を理解し治療ケアを適切にできる。
3. 地域包括ケアを行うために、在宅移行支援と在宅ケアを適切に行うことができる。

13 研修項目

＜コース一覧＞

コース 1. 包括的評価

GI0: 患者を全人的に理解し、苦痛だけでなく患者の支えとなるものをとらえることができる。

コース 2. 痛みのマネジメント

GI0: 患者の痛みを評価し、薬物療法だけでなく、非薬物療法を含めた様々な手段を使い、痛みを緩和することができる。

コース 3. 痛み以外の身体症状のマネジメント

GI0: 痛み以外の症状について評価を行い、薬物療法だけでなく、非薬物療法を含めた様々な手段を使い、それらの症状を緩和することができる。

コース 4. 精神症状のマネジメント

GI0: 精神症状について評価を行い、薬物療法だけでなく、非薬物療法を含めた様々な手段を使い、それらの症状を緩和することができる。

コース 5. 非がん疾患の緩和ケア

GI0: 非がん疾患患者に対して、専門家と協力しながら緩和ケアの適応について検討し、適切に緩和ケアを提供することができる。

コース 6. 心理的反応

GI0: 心理的反応を評価し、適切に対応することができる。

コース 7. 社会的問題

GI0: 社会的問題を評価し、適切に対応することができる。

コース 8. スピリチュアルケア

GI0: 患者のスピリチュアルペインを正しく理解し、適切な援助をすることができる。

コース 9. 倫理的問題

GI0: 緩和ケアにおける倫理的問題を理解し、適切に対応することができる。

コース 10. 意思決定支援

GI0: 患者・家族の意向を尊重し、意思決定支援を行うことができる。

コース 11. コミュニケーション

GI0: 患者の人格を尊重し、コミュニケーションをとることができる。

コース 12. 苦痛緩和のための鎮静

GI0: 苦痛緩和のための鎮静を適切に行うことができる。

コース 13. 疾患の軌跡

GI0: 疾患の軌跡について理解し、予後の予測をすることができる。

コース 14. 臨死期のケア

GI0: 臨死期における患者・家族に対して適切に対応することができる。

コース 15. 家族ケア

GI0: 家族が抱える問題に気づき、家族のケアを適切に行うことができる。

コース 16. 遺族ケア

GI0: 死別・喪失による悲嘆反応に気づき、適切に対応することができる。

コース 17. 医療従事者への心理的ケア

GI0: 自分自身およびスタッフの心理的ケアを行うことができる。

コース 18. チーム医療

GI0: チーム医療を実践することができる。

コース 19. コンサルテーション

GI0: 緩和ケアについてのコンサルテーションを適切に実施することができる。

コース 20. 地域連携

GI0: 地域の医療機関と連携して、それぞれの地域に適した医療を提供することができる。

コース 21. 腫瘍学

GI0: 腫瘍学についての知識を得、患者にとって最善の医療の選択に関わることができる。

コース 22. 教育・研究

GI0: 緩和医療の専門家として、常に最新の知識を得るだけでなく、緩和ケアの教育・研究にも携わり、緩和医療の発展に寄与することができる。

個別行動目標 (Specific Behavioral Objectives:SB0s)

コース 1. 包括的評価

GI0: 患者を全人的に理解し、苦痛だけでなく患者の支えとなるものをとらえることができる。

SB0s :

- ① 全人的苦痛の概念について述べることができる。
- ② 患者の苦痛を多面的にとらえることができる。
- ③ それぞれの苦痛に対して、マネジメントのプランを列挙することができる。
- ④ 患者の希望、信念、価値観などの多様性について配慮し、患者の意向に沿った治療目標をたてることができる。
- ⑤ 苦痛の早期発見、治療や予防について配慮することができる。

コース 2. 痛みのマネジメント

GI0: 患者の痛みを評価し、薬物療法だけでなく、非薬物療法を含めた様々な手段を使い、痛みを緩和することができる。

SB0s :

- ① 痛みの定義を述べることができる。
- ② 痛みの成因やそのメカニズムについて述べることができる。
- ③ 痛みのアセスメントについて具体的に説明することができる。
- ④ 痛みの種類と、典型的な痛み症候群について説明することができる。
- ⑤ WHO 方式がん疼痛治療法について具体的に説明することができる。
- ⑥ 神経障害性疼痛について説明することができる。
- ⑦ 痛みに対するケアについて述べることができる。
- ⑧ WHO 方式がん疼痛治療法に準じて、痛みに対する薬物療法を適切に選択することができる。
- ⑨ 患者の状態に合わせて適切にオピオイドを選択することができる。
- ⑩ 必要に応じて鎮痛補助薬を選択することができる。
- ⑪ 薬物の経口投与や非経口投与を適切に行うことができる。
- ⑫ オピオイドの副作用に対して、適切に予防、処置を行うことができる。
- ⑬ オピオイドによる精神依存について理解し、対応することができる。
- ⑭ 放射線療法の適応について考慮することができ、適切に施行するか、もしくは専門家に相談および紹介することができる。
- ⑮ 外科的療法の適応について考慮することができ、適切に施行するか、もしくは専門家に相談および紹介することができる。
- ⑯ 神経ブロックの適応について考慮することができ、適切に施行するか、もしくは専門家に相談および紹介することができる。
- ⑰ 非がん性疼痛を評価し、対応することができる。

コース 3. 痛み以外の身体症状のマネジメント

GI0: 痛み以外の身体症状について評価を行い、薬物療法だけでなく、非薬物療法を含めた様々な手段を使い、それらの症状を緩和することができる。

SB0s :

以下の症候や疾患に適切に対処することができる。

- ① 倦怠感
- ② 食欲不振
- ③ 悪液質症候群
- ④ 悪心・嘔吐
- ⑤ 消化管閉塞
- ⑥ 便秘
- ⑦ 下痢
- ⑧ 腹水
- ⑨ 腹部膨満感
- ⑩ 吃逆
- ⑪ 嚥下困難
- ⑫ 口腔・食道カンジダ症
- ⑬ 口内炎
- ⑭ 口渇
- ⑮ 黄疸
- ⑯ 呼吸困難
- ⑰ 咳嗽
- ⑱ 胸水
- ⑲ 気道分泌過多
- ⑳ 尿失禁
- ㉑ 排尿困難
- ㉒ 乏尿・無尿
- ㉓ 水腎症（腎瘻の適応を含む）
- ㉔ 血尿
- ㉕ 褥瘡
- ㉖ 皮膚潰瘍
- ㉗ 掻痒
- ㉘ 痙攣
- ㉙ ミオクローヌス
- ㉚ 四肢および体幹の麻痺
- ㉛ 振戦・不随意運動
- ㉜ せん妄
- ㉝ 浮腫
- ㉞ 発熱

コース 4. 精神症状のマネジメント

GI0: 精神症状について評価を行い、薬物療法だけでなく、非薬物療法を含めた様々な手段を使い、それらの症状を緩和することができる。

SB0s :

以下の症候や疾患に適切に対処することができる。

- ① 抑うつ
- ② 適応障害
- ③ 不安
- ④ 睡眠障害

コース 5. 非がん疾患の緩和ケア

GI0: 非がん疾患患者に対して、専門家と協力しながら緩和ケアの適応について検討し、適切に緩和ケアを提供することができる。

SB0s : 以下の疾患に、専門家と協力して適切に対処することができる。

- ① 肝不全
- ② 呼吸不全
- ③ 心不全
- ④ 腎不全
- ⑤ 神経・筋疾患
- ⑥ 認知症
- ⑦ 後天性免疫不全症候群 (HIV/AIDS)

コース 6. 心理的反応

GI0: 心理的反応を評価し、適切に対応することができる。

SB0s :

- ① 否認や怒りなどの心理的反応を認識し、適切に対処することができる。
- ② 悲嘆喪失反応が様々な場面で、様々な形で表れることを理解し、それが悲しみを癒すための重要なプロセスであることに配慮することができる。
- ③ 心理的防衛機制について、配慮することができる。

コース 7. 社会的問題

GI0: 社会的問題を評価し、適切に対応することができる。

SB0s :

- ① 医療保険制度、介護保険制度などの社会保障制度を理解している。
- ② 患者や家族のおかれた社会的、経済的問題に配慮することができる。
- ③ 家族間の問題に配慮することができる。
- ④ 患者・家族の社会的、経済的援助のための社会資源を適切に紹介、利用することができる。

コース 8. スピリチュアルケア

GI0: 患者のスピリチュアルペインを正しく理解し、適切な援助をすることができる。

SB0s :

- ① スピリチュアルペインの代表的なカテゴリーを理解している。
- ② 診療にあたり患者・家族の信念や価値観を尊重することができる。
- ③ 患者や家族、医療者の死生観がスピリチュアルペインに及ぼす影響と重要性を認識することができる。
- ④ スピリチュアルペイン、及び宗教的、文化的背景が患者の QOL に大きな影響をもたらすことを認識するこ

とができる。

- ⑤ 患者・家族の持つ宗教による死のとらえ方を尊重することができる。

コース 9. 倫理的問題

GI0: 緩和ケアにおける倫理的問題を理解し、適切に対応することができる。

SB0s :

- ① 医療における基本的な倫理原則について述べることができる。
- ② 緩和ケアにおける倫理的問題について説明することができる。
- ③ 緩和ケアにおける倫理的問題について、倫理原則にもとづいて多職種のスタッフと検討することができる。
- ④ 患者が治療を拒否する権利や他の治療についての情報を得る権利を尊重することができる。
- ⑤ 治療の中止・差し控えについて、適切に対応することができる。
- ⑥ 尊厳死や安楽死について社会的議論を把握している。

コース 10. 意思決定支援

GI0: 患者・家族の意向を尊重し、意思決定支援を行うことができる。

SB0s :

- ① Advance Care Planning の概念について述べることができる。
- ② 患者・家族と治療およびケアの方法について話し合い、治療・ケアの計画をともに作成することができる。
- ③ 患者や家族の治療に対する考えや意志を尊重し、配慮することができる。
- ④ 患者の自律性を尊重し、意思決定支援を行うことができる。
- ⑤ 療養場所を決定する際に必要な情報を提供し、意思決定支援を行うことができる。

コース 11. コミュニケーション

GI0: 患者の人格を尊重し、コミュニケーションをとることができる。

SB0s :

- ① 患者が持つコミュニケーションスタイルやコーピングスタイルを理解し、適切に対応し、援助することができる。
- ② 悪い知らせを患者・家族に伝える具体的な方法について述べることができる。
- ③ 言語的なコミュニケーションだけでなく、非言語的なコミュニケーションにも配慮することができる。
- ④ 患者に病気の診断や見通し、治療方針について適切に伝えることができる。
- ⑤ 患者の希望、意向や価値観について傾聴することができる。
- ⑥ 患者からの困難な質問や感情の表出に対応することができる。

コース 12. 苦痛緩和のための鎮静

GI0: 苦痛緩和のための鎮静を適切に行うことができる。

SB0s :

- ① 苦痛緩和のための鎮静の適応と限界、その問題点について述べることができる。
- ② 患者と家族に鎮静について説明し、必要時に適切な鎮静を行うことができる。
- ③ 他の医療従事者からの鎮静についての相談に応じ、適切に対応することができる。
- ④ 鎮静についての社会的な議論について把握している。

コース 13. 疾患の軌跡

GI0: 疾患の軌跡について理解し、予後の予測をすることができる。

SB0s :

- ① 疾患による軌跡の違いについて述べることができる。
- ② 予後予測ツールを理解し、限界についても述べることができる。
- ③ 予後予測にもとづき、患者・家族に適切な説明をすることができる。

コース 14. 臨死期のケア

GI0: 臨死期における患者・家族に対して適切に対応することができる。

SB0s :

- ① 患者が死に至る時期および死後も、患者を一人の人として、尊厳を持って接することができる。
- ② 看取りの時期及び死別直後の家族の心理に配慮することができる。
- ③ 看取りの時期であることを適切に判断できる。
- ④ 終末期の輸液について十分な知識を持ち、適切に施行することができる。
- ⑤ 患者と家族の意向を尊重し、患者の病態にあわせて看取りに向けて必要な指示を出すことができる。
- ⑥ 看取り前後に必要な情報を、適切に家族に説明することができる。

コース 15. 家族ケア

GI0: 家族が抱える問題に気づき、家族のケアを適切に行うことができる。

SB0s :

- ① 家族背景を把握することができる。
- ② 家族の構成員が持つコミュニケーションスタイルやコーピングスタイルを理解し、適切に対応することができる。
- ③ 家族の構成員がそれぞれ病状や予後に対して異なる考えや見通しを持っていることに配慮することができる。
- ④ 家族の負担感や疲労に気づき、適切に対応することができる。

コース 16. 遺族ケア

GI0: 死別・喪失による悲嘆反応に気づき、適切に対応することができる。

SB0s :

- ① 死別・喪失による悲嘆反応のパターンについて述べることができる。
- ② 複雑な悲嘆反応をきたしやすい条件（リスクファクター）を述べることができる。
- ③ 予期悲嘆に気づき、適切に対応することができる。
- ④ 死別を体験した人を支援することができる。
- ⑤ 複雑な悲嘆反応に気づき、適切に対応することができる。
- ⑥ 抑うつを早期に発見し、専門家に紹介することができる。

コース 17. 医療従事者への心理的ケア

GI0: 自分自身およびスタッフの心理的ケアを行うことができる。

SB0s :

- ① チームメンバーや自分の心理的ストレスを認識することができる。
- ② 自分自身の心理的ストレスに対して、他のスタッフに助けを求めることの重要性について理解することができる。
- ③ 自分自身の個人的な意見や死に対する考え方が患者およびスタッフに影響を与えることを認識することが

できる。

④ ケアが不十分だったのではないかという自分、およびスタッフの罪責感をチーム内で話し合い、乗り越えることができる。

⑤ スタッフサポートの方法論を知り、実践することができる。

⑥ スタッフが常に死や喪失体験と向き合っているということを理解し、正常の心理反応といわゆる燃え尽き反応を区別することができる。

コース 18. チーム医療

GI0: チーム医療を実践することができる。

SB0s :

① チーム医療の重要性と難しさを理解し、チームの一員として働くことができる。

② リーダーシップの重要性について理解し、チーム構成員の能力の向上に配慮することができる。

③ 他職種のスタッフ及びボランティアについて理解し、お互いに尊重しあうことができる。

④ 基本的なグループダイナミクスとその重要性について述べることができる。

コース 19. コンサルテーション

GI0: 緩和ケアについてのコンサルテーションを適切に実施することができる。

SB0s :

① コンサルテーション活動について述べることができる。

② 依頼者からの依頼に応じて、適切な推奨および直接ケアを行うことができる。

③ 推奨および直接ケアは患者や家族の個別性に配慮し、診療ガイドライン等に基づいて行うことができる。

④ アセスメントや推奨の内容について依頼元の医療従事者と話し合うことができる。

⑤ 必要に応じて、依頼元の医療従事者とカンファレンスを行うことができる。

コース 20. 地域連携

GI0: 地域の医療機関と連携して、それぞれの地域に適した医療を提供することができる。

SB0s :

① 自分が所属する組織の地域における役割を述べることができる。

② 周囲の医療機関と協力して、緩和ケアを提供することができる。

③ 地域の医療資源、社会資源を把握することができる。

④ 患者と家族が希望する療養場所に移行できるよう支援することができる。

⑤ 在宅医療に携わる医療従事者と連携し、在宅緩和ケアについて相談または実践することができる。

コース 21. 腫瘍学

GI0: 腫瘍学についての知識を得、患者にとって最善の医療の選択に関わることができる。

SB0s :

① 基本的な腫瘍学に関する知識を得ることができる。

② 外科療法の適応について理解し、適切に専門家に相談することができる。

③ 放射線療法の適応について理解し、適切に専門家に相談することができる。

④ がん薬物療法の適応について理解し、適切に専門家に相談することができる。

⑤ 以下に挙げた腫瘍学的緊急症に対して、専門家と協力して適切に対処することができる。

1. 高カルシウム血症

2. 抗利尿ホルモン不適切分泌症候群（SIADH）
3. 上大静脈症候群
4. 肺血栓塞栓症
5. 大量出血（吐血・下血・喀血など）
6. 脊髄圧迫
7. 頭蓋内圧亢進症

⑥ わが国におけるがん医療の現況について述べることができる。

コース 22. 教育・研究

GI0：緩和医療の専門家として、常に最新の知識を得るだけでなく、緩和ケアの教育・研究にも携わり、緩和医療の発展に寄与することができる。

SB0s：

- ① 臨床現場で起こる日常の疑問について、常に最新の知識を得るよう心がけることができる。
- ② 教育の基本的な手法について知り、実践することができる。
- ③ 所属する各機関及びその地域において緩和ケアの教育・啓発・普及活動を行うことができる。
- ④ 臨床研究の重要性を知り、緩和ケアに関する未解決な問題に対して行われる臨床研究に参加することができる。
- ⑤ 医学論文の批判的吟味を行うことができる。
- ⑥ 緩和ケアに関する学会・研修会に積極的に参加し、診療・研究業績を発表することができる。

■研修時の担当患者

受け持ち患者は、以下の通りになります。

（１）緩和ケア病棟入院患者

- ・緩和ケア病棟に入院患者の診療

（２）腫瘍内科の入院患者

- ・外来化学療法室外来
- ・化学療法の導入と随伴する症状悪化時の入院

（３）緩和ケアチーム（がんサポートチーム）の回診、介入患者の受け持ち

- ・緩和ケアチームの活動に参加します。

（４）緩和ケア外来診療

- ・緩和ケアの初診外来と再診外来があり、対応します。
- ・緩和ケア患者の救急外来受診対応を行います。

（５）在宅ケア患者の在宅医療

- ・在宅ケア相談部門で在宅ケアを行っている患者の往診・在宅看取りを含む在宅ケア

（６）在宅患者・外来患者の入院時の受け持ち

- ・在宅患者・外来患者の病状悪化入院時の受け持ち
- ・在宅へ移行するためのケアプランの作成
- ・病状評価患者の診療

（７）高齢者ケア・地域包括ケア

- ・地域包括ケア病棟にて高齢者の急性期から在宅移行・在宅ケアまでを支援することを体験する。

(8) 非がん患者の緩和ケア

- ・非がん患者の緩和ケア、終末期ケアを入院治療し、在宅に往診する。

(9) 地域連携

- ・地域の医療機関や、訪問看護ステーション・ヘルパーらと協力して地域包括ケアを行う。

(10) 内科順番割り当て患者の受け持ち、救急外来当番（希望者）

- ・急患、専門科に分類できない、多臓器障害などの患者の受け持ち割り当てがあります。

(11) 各種チーム医療参加

- ・栄養サポートチーム、感染管理チーム、褥瘡チーム、嚥下チームなどへの参加が可能です。

(12) その他

内科専門医プログラム研修者は、内科カンファレンス、早朝症例検討会、一般内科患者、内科一般外来、救急当番、当直（緩和ケア内科・内科で合計月4回程度）等のルーチンワークの割り当てに応える義務があります。

緩和ケア・在宅ケア専門研修コース研修者は、所属は緩和ケア内科に所属し受け持ち患者を持ちますが、希望により院内の診療科を研修に回ることが出来ます。また、内視鏡、超音波検査などのテクニカルな研修を希望の場合にも、対応可能で、個々の研修医の希望に添って、研修メニューのオプションは自由に設定します。希望者は、腫瘍内科のがん薬物療法専門医の指導により化学療法の研修も可能です。化学療法から緩和ケア、在宅緩和ケアまでの研修を行うことができます。

専攻医は上記研修項目を履修することができますが、別に、内科カンファレンス、初期、後期研修医のためのクルズス、職員研修会、CPC等の勉強会が行われていますので、随時出席することが可能です。

緩和ケア内科研修は、個々の症例について、受け持ち患者を診療し、上席医の指導を受けながら、臨床能力を向上していくことが可能です。

井田病院緩和ケア内科での後期研修は、緩和ケアと在宅ケア、高齢者ケアを地域の中で連続して、プライマリーケアとして一貫して診療することにより、病気を抱えた患者を全人的に理解し診療・ケアすることができるのみならず、患者を取り巻く家族や地域社会への理解と造詣を深めることができるところに特徴があります。

3か月からの短期の在宅ケア・緩和ケアに特化した研修プログラムも用意されており、希望に応じた研修を行うことができます。プライマリーケアを基盤として、緩和ケア、在宅ケア、高齢者ケア、家族ケア、内科系全般の診療能力を磨きたい、との志を持った諸君の集結を心待ちにしています。なお、他科で研修・診療されてきた医師の転科や開業準備の研修も積極的に受け入れています。